

西山町・刈羽村での支援活動

(長田支部長 小寺忠則)

8月8日～10日の3日間、新潟県中越沖地震で大きな被害があった西山町、そして刈羽村へ神戸市職労の支援活動として参加してきました。

あの阪神大震災でボランティアを受け入れた経験が役に立ったのであればうれしい限りです。

8日の朝、市役所3号館前の集合場所は、多くの見送りの人たちとマスコミのカメラがあり、神戸市の職員を代表して参加するということの重みを感じました。

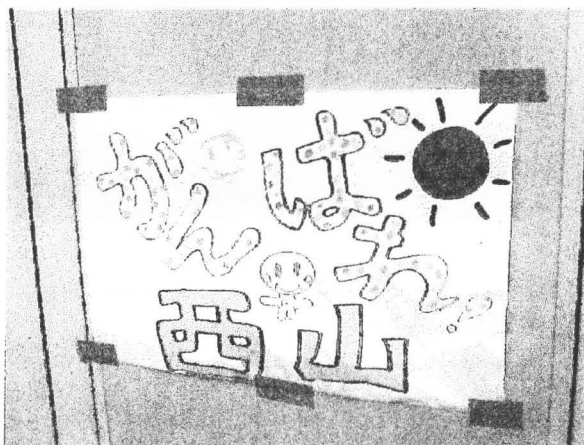
飛行機・バスを乗り継ぎ午後1時前に西山町へ到着し、ボランティア登録し、リーダーからの説明を聞いた後に、その日の業務である各戸へのビラ配りをはじめました。

ビラの内容は、『ボランティアセンターの電話番号が変更になった』というもので、ビラを配りながら声をかけ、困ったことや緊急を要することがないかなどを聞いて回ることが主な目的でした。

炎天下の中、汗だくになりながら約70世帯を訪問しましたが、「ご苦労様です」という労いの言葉や、ボランティアセンターから配給されたウェットティッシュを手渡しすると「ご馳走様です」、「助かります」などの感謝の言葉に、私たちの疲れも癒されました。

その日の晩、宿舎となった長岡の旅館では、女将が「震災・原発火災という風評被害でこの夏の予約がほぼキャンセルとなって困っていた。わざわざ柏崎から離れたこの宿に泊まってくれて感謝します。」と目を潤ませながら言われました。また、翌々日の朝のニュースでも新潟県内での宿泊のキャンセルが5万件あると取り上げられていました。

また、昼間の行動の中でも、「神戸から来ました」というと目に涙を浮かべて感謝してくれる方もあり、『現場に入る』ということの意味の深さを感じることができました。



地震の概要

- ・発震 : 2007年7月16日(月) 10時13分
- ・震源 : 新潟県上中越沖(新潟市の南西約60km)
- ・震源の深さ : 約17km
- ・地震の規模 : マグニチュード6.8(暫定値)
- ・震度6強の地域 : 新潟県長岡市(小国町)・柏崎市(西山町)・刈羽村、長野県飯綱町(三水村)

新潟県(2007年8月4日9時現在)

- ・死者 : 11名
- ・重軽傷者 : 1,957名
- ・建物全壊 : 1,082棟
- ・建物大規模半壊 : 348棟
- ・建物半壊 : 1,987棟
- ・建物一部損壊 : 25,102棟
- ・非住家被害 : 18,657棟

9日、朝から西山町に入ったものの、この日は高校生のボランティアが多数入っていて、数分遅れで荷物運びなどの重労働はなくなっていました。そこで前日に配布しきることができなかった地域へのビラの配布の続きをすることになったのですが、約1時間ほどで私を含む8名が次の作業のため、ボランティアセンターに呼び戻されることとなりました。

次の現場では、崩れた蔵の土壁を一輪車に乗せ、指定された場所へ運ぶという作業でした。一見容易に思えた作業でしたが、土壁には竹や麻紐などの下地がしっかりと入っており、それらを除けながら土を掘るのは大変な作業でした。

午後からはボランティアが飽和状態となっていたため、全くと言えるほど作業はなく、2時間ほど経った午後3時過ぎ、瓦礫処理の依頼が入っただけでした。

10日、宿舎を出る時間を約1時間早めて、刈羽村へ入ることにしました。西山町では作業が十分にできないことを考慮してのことで、刈羽村労組も受入れの態勢をとってはくれたのですが、この日も大規模なボランティアが入っていて、午前中で全員がそれぞれ1つの作業につけるとい程度でした。

この3日間で、私たちが実際に携わった作業は非常に少なく、物足りなさを感じたというのが正直な感想ではありますが、刻一刻と変わっていく被災地の状況の中で、その時々ニーズには十分に答えられるわけもなく、阪神・淡路大震災時に長田の避難所に詰めてくれているボランティアに仕事を与えることができないもどかしさや、他の避難所を紹介しなければならない申し訳なさを思い出すことができ、ボランティアとして、またそれを受け入れる側としての両方の立場を知ることができたということは、今後支援活動をしていく中でも大きな経験になりました。

新長田駅南地区、再開発事業の現状

4回の国勢調査を比較して⑨

新長田駅南・再開発地区を大正筋グループとピフレグループと新長田一番街グループに分けて見てみよう。

前回のレポートでは新長田一番街と大正筋について述べたが、若松町4丁目は震災前に既に駅南再開発としてピフレ建築が始まっていたので3つに分けて詳しく見てみよう。

その前に日吉町1丁目が1995年に119人に増えているのは、若松公園に仮設住宅が建設されたためである。

表を見てみよう。

大正筋グループとピフレグループのり災は、火災がほとんどであり焼け残った耐火建物も「黒こげ」の状態であった。

消防庁の報告書には、次のように記されている。

大正筋グループ(焼失面積35,100㎡)の火災は地震発生後約3時間が経過した10時頃、久保町5丁目南角付近で出火し、南および北西へと拡大し、11時45分頃に二葉町6丁目、腕塚町5丁目にも拡大し、12時30分頃に消防艇「たちばな」からの遠距離中継送水が始まった。しかし車両がホースを踏んで破れてしまったとの証言もある。一方、バケツリレーも数ヶ所で行われた。ピフレグループ(焼失面積39,570㎡)は、木造家屋と耐火建物が混在しており、「神戸の壁」があった若松町3丁目南東で出火し6時02分に消防隊(長田91)が到着し放水を始めたが、まもなく水圧が低下した。10時頃には大橋町3丁目全域に、14時頃には

新長田駅南地区のり災率と人口

	町 名	全棟数	り災率 (全半壊・焼)	1990年	1995年
大正筋G	二葉5・6	661棟	91%	1,921人	1,027人
	久保5・6				
	腕塚5・6				
ピフレG	大橋3・4	382棟	87%	876人	367人
	若松3・4				
新長田一番街G	大橋5～7	369棟	86%	1,787人	1,302人
	若松5～7				
	日吉1・2				
	合 計	1,412棟	89%	4,584人	2,696人

4丁目へと炎が移っていった。(上平さんはこの模様を公団12階のベランダから撮った写真を当室に寄贈されている)

二葉小学校へ避難していた方々は火が迫ってきたので他の学校へ逃れ、再び二葉小学校へ戻れたのは3日後であった。



来室されました

斎木賢一さん(神戸市文書館)

鵜飼淳さん((財)神戸都市問題研究所)